



飾

笑



演



# 三角西港で ドラマ「坂の上の雲」のロケ

熱



撮



5月27日～29日、三角西港でドラマ「坂の上の雲」(司馬遼太郎原作)のロケが行われ、約200人のエキストラが参加しました。

このドラマは昨年11月にクランクイン後、国内では三角西港・熊本大学などで行われた熊本ロケのほか数カ所、国外ではロシア・中国・ヨーロッパでのロケが予定されており、2010年まで3年余りにわたる長期制作となります。

明治期の石積みの岸壁が現存することから選定された三角西港は、船上からの撮影や200人のエキストラの動員など「国内ロケでは最大級」(菅康弘NHKチーフ・プロデューサー談)。

今回の三角西港での収録シーンは明治16年9月に秋山真之(本木雅弘さん)と正岡子規(香川照之さん)が高橋是清(西田敏行さん)の誘いで横浜港に行き、最新鋭軍艦「筑紫」の威容に圧倒されるというストーリー。3人の俳優陣は、西港の岸壁や浦島屋を舞台に15歳の真之・子規、29歳の是清という設定の下、若々しい演技を披露していました。



宇城市だけでなく、県内外から集まったエキストラは三角公民館で、漁師役・軍人役・洋装女性役などに割り振られ、和服とかつら・軍服と軍刀・ドレスと帽子などを身に付けました。三角西港のオランダカフェ横には洋館のセット、岸壁には浮き桟橋、海上には軍艦上の撮影用セットが生まれ、和装・洋装の老若男女が行き交う横浜港が再現されていました。

初日は雨と肌寒さ、2日目は日差しと蒸し暑さの中で行われたロケでしたが、200人のエキストラ参加者は俳優陣と共に作り上げるテレビドラマの世界を楽しんでいたようでした。

